

波紋

1998 4 月 第154号

第11回改善発表会 2/21(土)

第1位 キャロット (営業3部) 「2匹目のド・ジョー」

前回に続き今回は優勝させていただきましたキャロットです。

前回、前々回、と仮装してのドラマ仕立てで行っていましたが、今回は仮装のドラマ仕立てのこともしないで優勝出来ました。中山さんの構想に牧野さんの脚色。皆で構成を考えて発表しましたが結構まとまった発表が出来たと思います。

ちまたでは、「あそこは前回、前々回の事があるから、きっとまたなんか芸を出すぞ!」とか期待して頂きましたが、またのお楽しみという事で次回に期待して下さい。

次回も優勝(3連勝)を目指して頑張ります。ありがとうございました。



発表者・加藤雅昭

第2位 さくらんぼ (森松産業事務) 「忍者貼っとり君」

今回のテーマは、箱に貼るシールの事と、発表者である私の名前「服部」をかけて「忍者貼っとり君」に決まりました。私自身発表者としては初めての改善発表会でしたので、緊張しましたがその分とても楽しみでした。前日夜遅くまでみんなでリハーサルをし頑張ったので、発表が終わった後は満足感もてました。結果2位と聞いた時はものすごく感動しましたが優勝ではなかったので少しくやしかったです。しかし、2位を頂いたおかげでサークルのみんなでしゃぶしゃぶの食べ放題に行き6人で30人分食べその後ガストのパフェを食べる事が出来大変楽しいおもいをする事ができました。



発表者・服部高久

第3位 シクラメン (丹後工場製造部) 「構内革命・小さな改善」

今回3位という評価を頂き有り難うございました。取り組んだ事は、①2Fパステース用の棚設置、②5号プレス抜き改善、③6号プレスの半自動化、④4K足踏みウェルダにエアシリンダー取付け、以上の4点です。現場の改善としては誰でも安全で楽に作業が出来るようにし、効率も上がる方法を考えていくことが基本とおもいます。作業者の年齢も上がる一方ですがパートさん達の要望や意見をしっかり聞き入れ、それを実行していく事でパートさんにも喜んでもらえる、それに働く意欲も出てくることは間違いないとおもいます。今後シクラメンサークルはそれぞれの作業者の立場に立って小さな改善を進めていき、働きやすい職場作りをしていきます。



発表者・坪井秀夫

「新入社員」

今年五名の新入社員が入社しました。

私の体験上、従来は新卒の人が入社する事は少なかった。最近になって多数の学生が弊社を希望してくれる様になったのです。景気の事を無関係にすれば、大変喜ばしい事と思っている。入社式の後、現場研修と新入社員研修が続きます。経済の環境の事は、本人達は十分確認しているのに心配なのが、社会人として一般常識を十分に教育したい。学校や家庭で学ぶ事が各人バラバラだからです。

- 1、あいさつの仕方
- 2、トイレ掃除
- 3、時間に対する観念

以上の三点をモリーン語録に沿って一緒に確認して行きたい。

先輩社員全員も初心にかえり、基本にかえって各自自身の足元を正そうではありませんか。新入社員の模範、モデルなる先輩社員として恥ずかしくない様になりたい。

「新人の成長は先輩の責任である」こんな気持ちで見本を示してもらいたい。

森 信之

トシ君の一方通行 「ノーパンシヤブシヤブ」

最近汚職の逮捕が目立つ。今に始まったことじゃない、昔からです。ところが笑っちゃうのが「ノーパンシヤブシヤブ」この接待で官僚が逮捕されたと初めて聞いた時は、大笑いだわさ。一流大学出て国民の生活を守ろうが守らないが、確実に給料が出て、天下ってから天文学的な退職金をもらえる官僚が（これは大問題だけど）ノーパンシヤブシヤブとは笑った。なぜ笑ったかという、ノーパンとシヤブシヤブがセットになってるってことです。ノーパンだけで普通はそれだけに集中する筈が、さすが欲が深いというか、ついでにシヤブシヤブを食っちゃまえというこの感覚が笑っちゃうんだわ。私の部下にこのノーパンシヤブシヤブへ行け、会社が金をもってやると言ったら、誰が行くだろうか。おそらく誰も行かないよ。どっちか片っ方だけ行かろうな（たぶんノーパンの方）。この両方楽しめるという器用さは原点が汗かいてぼろくそ言われて稼いでいる森松マンには到底出来ないと思うが、私の一方的な観念だろうか（案外両方ともこなしたりしてさ）。第一ねーちゃんんは、パンツを履いているところに価値があるのであって、やはり高級官僚は価値観が我々とかなりにずれているのです。接待する側の銀行も証券会社も価値観がずれたから、あんなるんだらうな。お役人の接待はもういいかげんに止めて、この信じられない低金利で一般庶民の消費意欲を無くしているからには、せめてノーパン銀行とかを作れば必ず繁盛するんだが……。森松も全然売れなくなっちゃったから、シヤブシヤブでなくシヤブでも扱おうか……。いや、いややっぱり本業のビニール屋で名もななく貧しく生きていこう。踏まれても蹴られてもビニール屋はまともな立派な生業なんだ。今に見ておれ！ ビニールは必ず戻る。ちゃんとパンツを履いて戻る！！ その時は皆でシヤブシヤブ食いにいくわね。

木村英利

森松クインテット 「二人の目覚め」

(レモン) 森 ちか

モーリンググループの従業員の方々に読んでもらいたくて、毎月一冊ずつ配っている「PHP」の本の裏表紙にいつも素晴らしいことが書いてあります。それを読んで毎月勇気付けられたり、反省したり、同感したりしています。特に三月号に書いてあったことが心に残りましたので改めて皆さんにも読んでほしいと思いましたが書いてみます。題は、「二人の目覚め」です。

家庭でのゴタゴタや職場でのいさかい。人間関係のトラブルは、その大半が各人の身勝手から起こってくる。自分にとつて特か損か、好きか嫌いか、そんなめいめいの勝手な言い分がぶつかり合っているうちに軋轢が生じ、やがては感情のもつれも加わって、事態がますますややこしくなる。そんな時にも、誰でもいい、「一人目覚めて」、とらわれのない見方に立つことである。奥さんがゴタゴタを超越すれば、ご主人も文句を言わなくなる。職場の先輩が口うるさくて理解がないといつても、後輩のもつていき方一つで、大概はどうしてもなる。だから、たとえ一番の後輩であっても、一人が各人の身勝手な理屈を超越した公正な立場に立つ。そうすればその人を中心に、きつと解決への道がひらけてくる。「二人の目覚め」はやがては必ず「全員の目覚め」に結びつく。

どうすればその「目覚めた一人」になれるのか。あたり前のことながら、やはり日頃から、とらわれのない身につくよう方、考え方が身にいくように努める以外にないだろう。さてきょうも一日、どれだけ私利私欲にとらわれな



「アールロン社来社」

三月一日〜3日までの期間、アールロン社のアン・ガナデン副社長及びジョン・ケリハー国際販売部長が来日しました。

昨年未よりアールロン社の日本総代理店として、マールキングシート「CARON II」の販売をC&S事業部で行っています。

今回来日の目的としては、日本市場の動向及び畜光関連について打ち合わせを行い日本市場の違いを痛感していました。

夜の会席では、アールロン社の方及び若手のみ（アールロン社二名・西口・妹尾・服部）で行いました。

今回は、森松のエンターテイナー妹尾さんの片言英語でパフォーマンスのオンパレード。終始笑いのある席でした。さぞかし楽しんでいただけた事と思えます。

三日の朝、次の目的地である台湾に発されました。台湾ではアールロンにとつて未開拓市場であり、日本を含めたアジア地域を視野に入れているようでした。



(サクラシボ) 森下友博

喜怒哀楽 「禊」

三月十三日森松としては久々の「禊」が行われました。会社の男子社員二十六名で数台の車に分乗して夕方五時、鈴鹿の椿大社（正確には「椿大神社」）へと出発です。

ちなみに椿大社は、いわゆる「天孫降臨」神話において、天津神である彦彦火瓊杵命他五柱（八柱？）の神が高千穂の峯へ降臨した際「道別神」として先導したといわれる国津神「猿田彦（猿田毘古）」をまつった神社です。（椿＝道別）

到着早々ふんどし片手に拝殿へのぼり、お禊をしてもらった後、早速「金竜明神の滝」へと向かいます。服をぬぎ腰のもの一つになり、「祝詞」を唱えます。次に「鳥船行事」（船を漕ぐ動作をしながらエイホッ、エイサッと声を出す）、「雄健行事」（生魂・足魂・玉留魂と大声で唱える）、「雄詰行事」（沼矛印を結び気合（エイッ！）とともに切りおろす）、「伊吹行事」（深呼吸の様なもの）、「振魂」（両手をへそのあたりでかくにぎり、体をふりながら祝戸大神、祝戸大神：と唱える）等のよりするに準備運動を古式ゆかしく（もちろん神道として意味のある動作なのでしようが）行った後、いよいよ滝つぼへ……。実は以前から禊をするなら、「心頭を滅却すれば水もまたぬるし（比叡山（？））神仏分離！ー！」という具合に美しく行おうと心に決めていたのですが……滝つぼへ足を入れた瞬間、そんな考えはどっかにかぶとんでし

まいました。とにかく冷たい！ため息と共に全身の力がぬけてしまいました。それでも準備運動で体を冷やしていた為、真冬の水仕事程のシビレも感じないで待つ事が出来たのでしよう。前の人の水シブキで体をならした後、とうとう私の順番になりました。

：今思えばこの時すでに全身の感覚が麻痺していたのか、はたまた極度の緊張で興奮状態に入っていたのか、先程の「雄詰行事」を再度行って滝の中へ入ってからの水の感覚は、全くと言っていい程見い出せません。とにかく無我夢中で「印」を結んで一点を凝視したまま、「禊へ給へ、清め給へ、六根清浄」と何回もどなり続けてました……。

禊を終わった後の感覚は逆に今でも忘れられません。何とも言えない心のしずけさと落ちつき。体はどつしりと地に着いているのに心は宙に浮かんでいる様な、本当に何とも言えない感じが全身を包んでいました。折しも当日は満月、その光の下、旅館にもどる迄、そんな感覚が続いていました。（もつとも翌朝にはただの二日酔いにもどってました……）

伊弉諾命が筑紫の日向で穢れを落とした事に由来すると言われる「禊」ですが、本当に穢れが落とせたかどうかはともかく、こんなに心が洗われる思いができた事に対して、又古への日本文化（伝統）に接する事ができた事に対してこの機会を与えてくれた会社と実行委員をつとめてくれた田井村さん、加藤さん

に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



（トウモロコシ）坂本隆志

暮らしのエッセイ

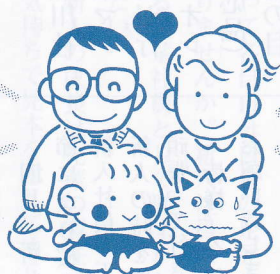
「共に生き共に育てる」

我が家に新しい家族が増えて二年八ヶ月が過ぎ、ようやくこの生活にも慣れてきた今日この頃、思い返せば子育てなんて初めてなので戸惑うことばかり、妻と二人、毎日が子育て戦争という感じです。でもそんな大変な毎日ですが、子供の笑顔を見た時、たとえどんなに疲れているときでも一瞬で元気になる、そんな気がします。

そして何より健康ですくすく育ってくれていることに感謝しながら、ふとした子供の成長を見つけては喜んでいる今の生活はとても幸せです。

そして子供が成長すると共に私達自身も成長していける、そのためにも自分自身、心身共に充実した生活を送るよう心掛けたいと思います。

（シクラメン）西垣浩司

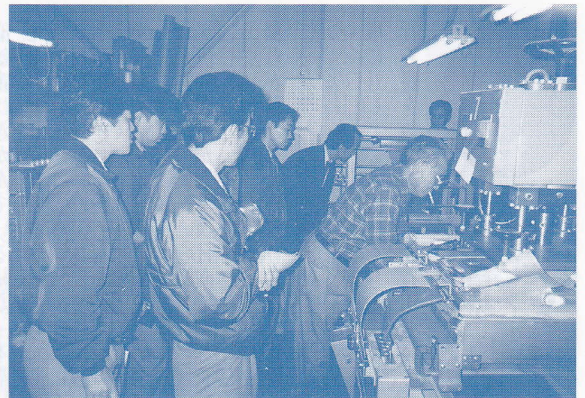


平成10年 4月の社内行事

- 1日(水) 入社式 9時
- 4日(土) 第一土曜日休み
- 6日(月) 誕生会 12時
- 8日(水) タツタ会
- 11日(土) 第二土曜日休み
- 13日(月) 丹後球場 18時30分
- 14日(火) 伊東(郁)さん誕生日
- 15日(水) ちかさん誕生日
- 16日(木) 名南支部
- 18日(土) 吉田さん誕生日
- 21日(火) 生産会議 17時40分
- 22日(水) 泥かぶら 18時
- // 時局社 11時
- 23日(木) 経営会議 15時10分
- 24日(金) 営業会議 16時30分
- // 編集会議 17時50分
- 27日(月) 下田さん誕生日
- // 丹後アニスコート 18時30分
- 28日(火) 法人会
- 29日(水) みじりの日

オレフォン勉強会 2/21

明日の森松を大きく飛躍させる新素材登場。塩ビの歴史は約五十年。それに対して、オレフィン誕生したばかり。このオレフィンを大きく育てていける喜びが一つ増えた訳です。新素材を拡販する事で、売上アップにつなげましょう。



クロカワKT様（黒川社長）に於て、森松営業マン全員参加による勉強会が行われました。内容は、オレフィンシート（環境対応品）の加工の現状を、自分の目で、それぞれが、しっかりと確認するというものです。



編集後記

四月、新しく出発の季節になり桜の咲くなか、新入社員が五名入ります。新人の時を思い出し一層頑張ってください。皆様、今後共、宜しくお願い致します。

松井宣和



編集発行者
森松株式会社

編集責任者
森下友博

平成10年4月1日
第154号